

## 南海フェリーの「フェリーあい」就航

事務局長 池田良穂

和歌山港と徳島港を結ぶ南海フェリーの「フェリーあい」が、12月15日から就航しました。建造所はサノヤス造船の水島造船所。「フェリーつるぎ」の代替船です。

さて就航当日の朝、和歌山港にでかけました。事前にAISで探査してみると、「フェリーあい」はフェリーターミナルの南の県営埠頭の一面に繋がれていることがわかりました。

10時10分に到着する「フェリーつるぎ」は10分以上早く和歌山港に到着しました。この便の折り返しの便は10時35分発なので、定刻だと引き継ぎ時間は25分しかありませんので、最後の航海を全力で走り抜けたのでしょう。「フェリーつるぎ」は岸壁の前で回頭して船尾から着岸しました。そして「フェリーあい」が移動してきて、港内で待機。「フェリーつるぎ」は、乗客・車を降ろすと10分ほどで出港。どうやらギリシアへの売船が決まっているようです。

続いて「フェリーあい」が、港内で回頭して船尾から着岸。さっそく乗客、車の乗船が始まりました。日曜のせい、車は乗用車ばかりでトラックの姿はありませんでした。

岸壁では、テレビと新聞の取材人の他、たくさんの船ファンらしき人たちがカメラを構えていました。中には、本学会の会員の顔もありました。



フェリーターミナルの南の埠頭に繋がれている「フェリーあい」



10時少し前に代替される「フェリーつるぎ」が到着しました。



徳島からの最後の航海で和歌山港に到着した「フェリーつるぎ」です。



着岸する「フェリーつるぎ」と、港内で待機する「フェリーあい」の姿です。



船側にはハートの中に「I」、船尾には「愛」の文字が。船名表示は「フェリーあい」と、英語表記では「Ferry I」とありました。「あい」には徳島名産の「藍染」の意味も兼ねており、船体塗装にも藍色が使われています。



就航第1便にはたくさんの乗用車が乗り込みました。